

アセスメントポリシーによる学習成果及び教育効果の検証 **アドミッションポリシー**

アドミッションポリシー		
資料	結果と解釈	
機 関 レ ベ ル	①各種入学選 抜	養成科（養成コース）を除くと、合格者 48 名、入学者 45 名であった。 入学者の評定平均値の平均は 3.7（標準偏差 0.41、最高値 4.7、最低値 2.9）、 小論文試験の平均点は 73.58（標準偏差 5.82、最高点 85、最低点 63.5）、面接 試験の平均点は 77 点（標準偏差 6.88、最高点 95、最低点 63）であった。 本年度は、アドミッションポリシーに合致する学生を募集することができたといえる。
	②学生調査	短期大学調査からも第一志望 91%（全国平均 85%）、就職するのに必要な資格 が取れる 96%（「重視した」「やや重視した」）等が読み取れる。 大学独自の調査を行う機関もあるが、アドミッションポリシーを鑑みて、「卒 業後の就職希望」等を含めたアンケートの実施も考えられる。
教 育 課 程 レ ベ ル	①各種入学選抜	本学は単学科となるため、機関レベルと同一となる。
科 目 レ ベ ル	③入学前課題 の確認試験	2020 年度入学生の一般教養テスト結果を 2019 年度（問題は同一）と比較する と、16-35 点のボリュームゾーンの厚みが増し、0-15 点の学生の割合が少ない ことが特徴である。入学時の一般教養テストがその後の成績をすべて予測する ものではないが、ある程度の相関はあるため、学力面で平均よりも遅れを取っ ている学生に対しては、学習上の支援が必要となる可能性もある。ただし、本 学は学力のみで選考を行っているわけではないので、入学者の学力にばらつき あることはアドミッションポリシーに矛盾しないといえる。

アセスメントポリシーによる学習成果及び教育効果の検証 **カリキュラムポリシー**

カリキュラムポリシー		
資料	結果と解釈	
機 関 レ ベ ル	①退学状況	入学生 41 名 退学・休学者 0 名
	②休学状況	このことから、教育・学生支援の成果が見られる。
	③短期大学生 調査	別資料 1 参照 このことから全国平均値と単純比較しても学生の意識、姿勢及び成長に寄与できていると判断できる。
	④学生満足度 調査・学習行動 調査	
教 育 課 程 レ ベ ル	⑤GPA	GPA は平均が 2.45 (中央値、最高値 3.44 、最低 1.15 、標準偏差 0.49) 3 以上が 6 名、2.5 以上 3 未満が 13 名、2 以上 2.5 未満 16 名、1.5 以上 2 未満が 4 名、1.5 未満 2 名であり、 このことから、学生は「科目内容を修得し、学習成果を獲得している」と判断できる。 手厚い学生支援・指導の対象となる 2.2 (目指す学習成果の獲得基準) 以下の学生は、11 名 (26.8%) となっている。
	⑥単位習得状況	目的に合わせた最適な算出方法を検討しており今回は除外する。
	⑦カリキュラムマップに基づく学習成果別評価(参考)	別資料 2 参照 (カリキュラムマップの科目に対応する学習成果における成績評価の割合を算出) 教養的学習成果においては、「良」「科目の内容を修得し学習成果を獲得している」以上の割合は、① 89% 、② 78% 、「可」「学習成果を最低限満たしている」以下は、① 11% 、② 24% であった (不可 3)。 専門的学習成果において、「良」「科目の内容を修得し学習成果を獲得している」以上の割合は、専門的学習成果① 89% 、② 91% 、③ 85% 、④ 81% であった。 「不可」「科目の内容を修得したと認められず、学習成果を満たしていない」の割合は、いずれにおいても 2% 以下であった。 このことから、1 年間の学びにおいて、学習成果の獲得が進んでいると判断できる。
	⑧成績評価 ⑨欠席状況	⑧2020 年度はコロナ禍における就学機会確保のため通信教育部との併修による教育課程であり、最終成績が未確定な科目があるため算出しない。 ⑨すべての科目において 90%前後の出席率となっている。
科 目	⑩授業評価アンケート	令和 2 年度の通学課程の前期・後期の授業評価アンケートの結果は、 教員に対する評価 (1) から (10) の平均：前期 4.05 後期 4.17

レ ベ ル		<p>(前期) (後期)</p> <p>学生自身に関する評価の平均 (1) から (5) 前期 3.9 後期 4.04</p> <p>科目の総合評価 前期 4.11 後期 4.29</p> <p>学生自身に関する内容以外、前・後期ともに4点「そう思う」を超えている(5件法)、そして学生自身に関して4点を超えていない理由は、(1)「予習・復習」に関する項目のみが低い値のためである。</p> <p>このことから、教員による教育の質は担保されているとともに、学生自身の学びへの意欲を喚起し、授業が意義あるものだとして学生自身に認識していることが分かる。そして、学生自身が自分の成長を実感しているが、学びに向けた姿勢・態度で臨んでいるものの、「予習・復習」の習慣化には至っていないことが読み取れる。</p>
-------------	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

アセスメントポリシーによる学習成果及び教育効果の検証 **ディプロマポリシー**

ディプロマポリシー			
資料	結果と解釈		
機 関 レ ベ ル	①卒業率 ②学位授与数	卒業生 29 名 (31 名入学) 93.4% (小数点第 2 位四捨五入) 学位授与数 29 教育・学生支援により卒業率は高い水準となっている。	
	③就職率 ④専門職率 ⑤進学状況	就職率：100% (就職希望者 28 名中 28 名) 専門職率：92.9% (公務員 8 名、私立保育園・幼稚園・こども園 14 名、福祉施設 4 名、一般企業 2 名から、26 名/28 名) 進学状況：4 年生大学 3 年次編入者 1 名 これらの状況から、専門職を中心とした就職状況は良好であったといえる。	
	⑥卒業時アンケート	卒後 1 年目でのアンケート。園長、施設長等からも指摘があるように、コミュニケーション能力の向上が求められている。これはディプロマポリシーにも記載があり、いかにディプロマポリシーを学生が体現していけるかという点が今後追及していくべき課題であるといえる。	
	⑦勤務状況調査	本学の取組を高く評価して頂いているコメントや、期待を込めて建設的に書いていただいたコメントも多くある。本学の特徴である一人一人の学生に対する懇切丁寧な指導を引き続きやっていくことが、本学の信頼をより一層高めることになると考える。ディプロマポリシーについて、特に変更等の必要性を示す明確なデータはない。	
	教 育 課 程 レ ベ ル	⑧GPA	GPA は平均が 2.46 (中央値、最高値 3.7 、最低 0.88 、標準偏差 0.77) 3 以上が 10 名、2.5 以上 3 未満が 5 名、2 以上 2.5 未満 5 名、1.5 以上 2 未満が 7 名、1.5 未満 3 名であり、 学生は「科目内容を修得し、学習成果を獲得している」と判断できる。 手厚い学生支援・指導の対象となる 2.2 (目指す学習成果の獲得基準) 以下の学生は、11 名 (36%) (退学者 1 名を含む) となっている。
		⑨資格・免許取得状況	保育士資格取得者 28 名 幼稚園教諭 28 名 卒業生の 97% が資格・免許を取得している。
		⑩単位習得状況	目的に合わせた最適な算出方法を検討しており今回は除外する。
⑪カリキュラムマップに基づく学習成果別評価(参考)		別資料 2 参照 (カリキュラムマップの科目に対応する学習成果における成績評価の割合を算出) 教養的学習成果①②においては、「良」「科目の内容を修得し学習成果を獲得している」以上が、85%、「可」「学習成果を最低限満たしている」以下は、15% 未満であった。 専門的学習成果において、「良」「科目の内容を修得し学習成果を獲得している」以上の割合は、専門的学習成果①83%、②84%、③79%、④89%であった。8 「可」「学習成果を最低限満たしている」以下の割合は、①16%、②15%、③20%、④12%であった (不可はいずれにおいても 1% 以下)。	

		2年間の学びの中で、6つすべての学習成果を獲得し、ディプロマポリシーに合致した人材育成が達せられていると判断できる。
--	--	------------------------------------------------------------